

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 28 日現在

機関番号：34309

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26861877

研究課題名(和文) 中堅助産師のキャリア開発と関連要因の探索

研究課題名(英文) Study on Exploring Career Development of Midwives in Mid-Career and its Influential Factors

研究代表者

常田 裕子 (TOKITA, YUKO)

京都橘大学・看護学部・専任講師

研究者番号：40622486

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：中堅助産師のキャリア開発に関する認識、それに関する影響要因を明らかにすることを目的とした。中堅助産師のキャリア開発の実態・認識とそれに対する影響要因を探索した結果、ワークライフバランスをふまえてキャリア開発を考え、就業機関、経験年数や私生活が影響している。またキャリア開発に向けた継続教育や研修に関する認識にも同様の傾向がみられ、総じてキャリア開発に必要な情報等が十分に認識されている状況とは言えない。中堅助産師がキャリア開発を考える時に、必要な情報を得たり、準備できるような環境・体制の整備が重要であることが考えられた。

研究成果の概要(英文)：This study aims to explore the career development and its influential factors of midwives in mid-career. Exploring the actual conditions and recognition of the career development of midwives in mid-career, midwives seem to pursue the career development with work-life-balance, and this would be influenced by belonging institutions, midwifery-experienced-year and private life. In addition, the recognition of on-going education and training for career development seems to be affected by the same factors; on the whole, it can be hardly said that midwives in the mid-career fully acknowledge necessary information for career development. Therefore, this study may show the supporting system needs to be developed, when they seeking information and preparing for their career development.

研究分野：母性看護学・助産学

キーワード：中堅助産師 キャリア開発

## 1. 研究開始当初の背景

近年、周産期医療は、安全・安心な出産場所を確保するため、周産期医療の集約化・ネットワーク化が急速に進められている。厚生労働省は「医師と看護職との協働」の充実とその重要性を明示している。

助産業務、後輩育成や病棟運営等をベテラン助産師と共に中心的に役割を担う世代と考えられる中堅助産師(臨床経験5~10年目程度)は、ライフイベント等による退職、進学・転職等のキャリアチェンジを考える時期でもある。日本看護協会は生活と仕事と学習の調和を基軸としたキャリアパスを示し、助産師個人がキャリアニーズを充足させながら成長し、社会が求める役割を果たすことが期待され、キャリアプランを十分に考えることが、自己と専門職の発展につながると指摘しているが、実情は不明である。助産師のキャリアの方向性は『仕事と私生活の両立』が最も多く、研修プログラムの認識が有意に低いといった看護師との違いが指摘され、研修プログラム、個人のニーズに応じた組織の支援体制のあり方や目標達成の要因に関する検討の必要性が指摘されている(猿田、佐々木 2011)。

## 2. 研究の目的

本研究は、助産師経験5~15年目程度の中堅助産師が専門職としてのキャリア開発に関する認識やそれに影響を与える要因を明確にし、中堅助産師に対する現任教育のあり方や支援体制を検討する。

## 3. 研究の方法

本研究目的を達成するために下記の3つの研究について、A大学倫理委員会の承認を得て実施し、研究1)3)は研究概要及び倫理的配慮等を含めた文書による説明と調査票の回答をもって研究協力への同意を得、研究2)は文書及び口頭において説明の上、同意書の提出をもって同意を得た。

### 1) 研究1

関西圏の分娩取り扱い病院に就業する臨床経験5~15年目の助産師、同等の経験を有する看護系大学院の大学院生・若手教員を対象に、平成27年10月に各施設の看護部門長に質問紙を配布した。質問紙は文献検討を踏まえ独自に作成した。無記名自記式調査票を郵送により個別に回収した。SPSS Ver.22.0を用いて記述統計及び対象者の背景(所属機関、経験年数等)、キャリア開発の満足度、キャリア開発に対する考え方の関連について、 $\chi^2$ 検定、Mann-WhitneyのU検定を行った。

### 2) 研究2

研究1)実施時に、本研究に関心を示した32名を候補に、平成28年2月に文書にて依頼し、インタビュー当日に参加可能な9名

を対象に、所属機関や助産師経験年数等を踏まえ2グループに分け、フォーカスグループインタビューを行った。中堅助産師のキャリア開発やキャリア開発に向けた現任教育・支援体制などについて聞き、逐語録を作成し、インタビュー内容について質的内容分析を行った。

### 3) 研究3

研究1)の対象及び関西圏の助産院の施設長を対象に平成29年1月に研究協力を依頼し、同意の得られた施設に対し、再度、調査票を送付し、経験年数の指定をせずに助産師個人への配布の依頼と一部機縁法により調査票を配布した。質問紙は研究1)にキャリアアンカーやキャリア開発に対する取り組みなどを追加し、無記名自記式調査票を郵送により個別に回収した。SPSS Ver.22.0を用いて、所属機関・助産師経験年数等を群 $\chi^2$ 検定、Kruskal Wallis検定を行った。

## 4. 研究成果

### 1) 研究1

182病院及び23教育機関に質問紙693通を配布・135通を回収(回収率19.5%)、経験年数が5~15年に合致する112名(病院97、教育15)(有効回答率83.0%)を分析対象と、平均年齢 $35.0 \pm 5.3$ 才、経験年数 $8.9 \pm 3.4$ 年、分娩介助数 $262 \pm 187$ 件である。キャリア開発について77名(68.8%)が満足し、今後の方向性は「実践能力向上」65名(60.2%)「現状が良い」は21名(19.4%)である。キャリア開発に最も影響する要因として約4割が「ワーク・ライフ・バランス(WLB)」を第1位にあげ、WLBは、第2・3位でも上位を占め、回答者の約7割が選択している。

キャリアの満足度、キャリアの方向性への影響に対する認識と対象者の背景要因の関連をみると、所属施設(教育・病院)、年齢、婚姻歴、分娩介助数、キャリアチェンジ(教育・実践/私生活事由の転職、転職無)、今後の方向性(実践能力向上、現状維持、その他)において有意差がみられた。キャリアの方向性を「現状が良い」と考えている場合、教育・実践事由のキャリアチェンジ経験者やキャリアチェンジ未経験者より、「特に困ったことがない」「キャリア開発に満足している」と考え、私生活事由のキャリアチェンジ経験者や子どもがいる場合は、「家事等が忙しくキャリア開発を考えられない」ととらえている。また病院就業の場合は、業務や育児等によりキャリア開発を考えられないととらえている。「実践能力の向上」を目指す場合や病院就業者の方がキャリア開発に必要な職場からの支援を得たり、教育・研修参加費用の確保に困難感を抱いている。

## 2) 研究 2

インタビュー当日の参加者は、8名であり、医療機関 3名、教育機関 5名、平均年齢 34.4±6.5歳、臨床経験 9.0±3.5年、分娩介助数 196±114件であった。

### 2) 質的内容分析により抽出された主な項目

中堅助産師のキャリア開発の実態には、【理想とする助産師像・働き方】がある一方で、【キャリア開発に対する無意識】、病棟の稼働率や経験の少ないスタッフ優先の助産実践の影響による 助産実践しにくい職場環境 所属機関を中心とした限られた実践の場 多様な助産師役割モデルの欠如 による【キャリアを意識したり、考えにくい状態】がある。また 実践上のジレンマ 私生活と仕事との兼ね合い 他施設での実践経験等【キャリアを見直す体験】がある。そのような中で【臨床実践における自己の取り組み】を行うと共に、施設内外研修への参加 大学院進学 就業場所の変更 という【新たなキャリアの模索】を行っている。

キャリア開発への影響には、看護部・病棟の育成方針 上司の考え という【看護管理者の助産師キャリアに対する考え】や 居住地の場所 結婚妊娠出産子育てなどのライフイベント 家族・パートナーの考え 等【キャリア開発に対する私生活の影響】があげられる。

なお本研究については、抽出されたサブカテゴリー・カテゴリーの精度をあげるために更に分析を進め、公表する予定である。

## 3) 研究 3

180 病院、27 教育機関及び 205 助産院に依頼し、各々50、9、28施設より同意が得られ、機縁法と合わせて619通の調査票を配布、262(42.3%)を回収した。その内、244(病院179、教育機関29、助産院36)(有効回答率93.1%)を分析対象とした。平均年齢39.1±10.0才、経験年数11.0±7.0年、分娩介助件数330±350件であった。キャリア開発については、151名(61.9%)が満足し、現在の仕事に対しても150名(61.5%)満足しており、これらは有意に相関している( $r=0.376$ ,  $p<0.01$ )。学生時代に何らかのキャリア教育を受けたことがあるものは52名(21.3%)であり、キャリアアンカー(エドガーH・シャイン)は、「生活様式」が85名(34.8%)と最も多く、次いで「専門・職能別能力」40名(16.4%)、「保障・安定」30名(12.3%)である。今後の方向性は、「助産実践能力の向上」106名(43.4%)、「現状のまま」69名(28.3%)であった。キャリア開発に最も影響を与える要因として100名(41.0%)が「ワーク・ライフ・バランス」をあげ、第2位・第3位と合わせると約6割があげている。

今までのキャリア開発や現在の仕事に対する思い、今後のキャリアの方向性やキャリアの認識と所属機関・助産師経験年数などの各要因を比較すると、「所属機関」「助産師

経験年数」「分娩介助件数」「婚姻歴」「助産師養成課程」において一部の項目に有意差が見られる。所属別比較では、病院助産師が、キャリア開発に向けて取得すべき資格、学ぶ場所、教育機関、必要な支援、費用の確保に困難を感じている割合が有意に大きい( $p<0.01$ )。今後の方向性については、助産師経験9年以下の助産師( $p<0.01$ )や独身( $p<0.01$ )が他群と比較すると「助産実践能力の向上」をあげる割合が有意に大きく、既婚(子どもあり)は「現状が良い」の割合が有意に大きい( $p<0.01$ )。また助産師経験9年以下の助産師の方が、「キャリア開発に向けて習得すべき知識・技術がわからない」と回答する割合が有意に大きい( $p<0.01$ )。

なお本研究についても、キャリアアンカー、キャリア開発・それに対する影響要因や仕事に対する満足度等の関係性などについて、更に統計学的分析および自由記述の分析を進め、公表する定である。

## 5. 考察:

助産師は、様々なキャリアアンカーを持ち、助産業務に従事しており、キャリア開発に対する認識は多様である。そしてこの認識には、所属機関、経験年数や私生活が影響する可能性がある。特に中堅助産師はワーク・ライフ・バランスをより重要視してキャリア開発を考え、キャリア開発の満足度、キャリアの方向性や就業場所、私生活が影響する可能性がある。自身の経験に伴う様々な影響を受けながら、キャリア開発を模索していると推察される

キャリア開発に向けた教育や研修に関連する情報の認識には、所属機関、年齢、経験年数(特に中堅前期)、分娩介助数において有意な関係が見られ、総じてキャリア開発に必要な情報等が十分に認識されている状況とは言えない。

これらのことより、中堅助産師がキャリア開発を考える時に、必要な情報を得たり、準備できるような環境・体制の整備が重要であることが示唆された。

## 6. 参考文献

猿田了子、佐々木真紀子(2011)病院に勤務する助産師のキャリア開発に対するニードとその関連要因(原著論文)、秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻紀要(1884-0167)19巻2号 Page111-125

## 6. 主な発表論文等

[学会発表](計3件)

1) Yuko Tokita; A Literature Review on Career Development of Nursing Professions, mainly Midwives in Mid-Career, 第11回 ICM アジア太平洋地域会議・助産学術集会、2015年7月22日、パシフィコ横浜(神奈川県・横浜市)

- 2) 常田裕子；中堅助産師のキャリア開発と関連要因の探索～質問紙調査より～、第57回日本母性衛生学会総会・学術集会、2016年10月15日、品川プリンスホテル（東京都・品川区）
- 3) 常田裕子；中堅助産師のキャリア開発と関連要因の探索～フォーカスグループインタビュー調査より～、第19回日本母性看護学会学術集会、2017年6月11日、武庫川女子大学（兵庫県・三宮市）

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

#### (1) 研究代表者

常田裕子 (TOKITA, Yuko)

京都橘大学・看護学部・専任講師

研究者番号：40622486